

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702107
法人名	株式会社エルダーサービス
事業所名	グループホーム 折尾東
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区丸尾町6番22号 (電話) 093 - 695 - 1220

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月6日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(平成20年9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 20,000円	
敷金	有(80,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,667円			

(4) 利用者の概要(9月24日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	67歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古村内科循環器科クリニック / 新水巻病院 / たつのおとしごクリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム折尾東は、街なかの交通の利便性が高い環境に立地し、周辺は住宅地になっている。これまで地域との関係を築いており、調査当日も地域の社会福祉協議会のふれあいネットワークの方が訪れ、入居者と一緒に運動を行うなど日常の中で気軽に地域の方々が立ち寄り交流がある。デイサービスも併設しており、デイサービスの利用者との交流を楽しみことができ、デイサービスのカラオケルームを使用できるなど、併設のメリットを活かした楽しみが多い。管理者・職員は、入居者と共に活気溢れる、生きがいのある毎日を送ることを支援し、ケアやサービスの質の向上を図るために日々真摯に取り組んでいる。地域の中でグループホームの理解を育み、地域の中で暮らし続けることを一歩一歩すすめてきた成果が着実に実を結んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、ケアやサービスの質の向上を図る取り組みを更に高めていくことが期待されており、改善点に関しては検討し、改善に向けて取り組み、評価結果をサービスの改善に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は外部評価の意義を理解し、管理者・職員共に日々のケアやサービスを振り返り取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員会は定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進委員会では、昨年度の外部評価の結果を報告するなど、取り組みや活動状況の報告にとどまらず、家族会の報告なども行い、意見・要望などを言っていたり、運営面に活かす取り組みを行っている。また、会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や運営推進委員会において、気軽に意見や苦情などを言ってもらえるように家族へ働きかけている。苦情・要望記録があり、家族や入居者の要望について対応した経過がわかるものがある。苦情・要望などを真摯に受けとめ、今後のケアやサービスに活かしていくとする取り組みとして高く評価できる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、町内の組長の実績もある。地域の社会福祉協議会のふれあいネットワークの方が気軽に訪れ、入居者と一緒に運動したりなど日常の中で地域との交流が自然に育まれている。地域の草取りに参加したり、散歩の途中で保育園・小学校・市民センターに立ち寄り、地域との交流を図っている。また、折り紙教室など地域のボランティアの協力もあり、地域の中に溶け込んだ展開を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの主旨をふまえ、「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は目のつくところに掲示しており、毎朝のミーティングや定例会時に理念を唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており、町内の組長の実績もある。地域の社会福祉協議会のふれあいネットワークの方が気軽に訪れ、入居者と一緒に運動したりなど日常の中で地域との交流が自然に育まれている。地域の草取りに参加したり、散歩の途中で保育園・小学校・市民センターに立ち寄り、地域との交流を図っている。また、折り紙教室など地域のボランティアの協力もあり、地域の中に溶け込んだ展開を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の評価結果を運営推進委員会に報告するなど、外部評価の意義を理解し、外部評価を活かす取り組みを行っている。前回の改善に関しては検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進委員会では、昨年度の外部評価の結果を報告するなど、取り組みや活動状況の報告にとどまらず、家族会の報告なども行い、意見・要望を言っただき、運営面に活かす取り組みを行っている。また、会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるように努めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市の担当課とは、常に連絡を取り、情報交換を行っている。市の事業である「家庭介護教室」を自治会に対して年2回受託するなど、積極的に行政との連携に努めている。また、月2回社会福祉協議会より介護相談員を受け入れている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護の制度を利用している入居者がおり、支援できる体制を整えている。北九州市社会福祉研修所主催の権利擁護の研修を受講し制度の理解を高めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月に1回、家族に生活状況・健康状態・金銭管理など手紙で報告している。また、早急な連絡が必要な場合は、その都度連絡をしている。居室には入居者個別にグループホームでの日々がアルバムにまとめられ、家族がいつでも見ることができ、家族にとってはホームでの暮らしが手にとるようにわかり大きな安心感がある。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	面会時や運営推進委員会において、気軽に意見や苦情などを言っただけのように家族へ働きかけている。苦情・要望記録があり、家族や入居者の要望について対応した経過がわかるものがある。苦情・要望などを真摯に受けとめ、今後のケアやサービスに活かしていこうとする取り組みとして高く評価できる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者には担当制を用い、なじみの関係を大切にしたケアを行っている。新入社員の場合は、入居者とのなじみの関係を考慮し、担当していた職員がフォローできる体制を整えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用は、年齢・性別などで排除することはない。管理者は職員の精神的フォローを心がけ、職員が生き生きと働けるように研修などの受講を含めサポートしている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	北九州市社会福祉研修所の権利擁護の基礎編を受講し、人権に対する意識を高めている。また、管理者は入居者の人権に配慮したケアを行うよう指導・教育している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	平成20年度のエルダーサービスの研修の計画があり、その他、北九州市社会福祉研修所や社会福祉協議会の研修情報を入手し、積極的に研修参加を行っている。また、毎月、テーマを決め定例会を開催し、ケアやサービスの振り返りや質の向上を図る取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	周辺のグループホームと電話連絡など、情報交換を行っている。地域における認知症ケアの理解を高め、地域密着型サービスを推進していくためには、地域内との同業者の連携が必要である。今後は、同業者とのネットワーク化に期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には併設のデイサービスを利用していただき、徐々になじんでいただけるよう取り組んでいる。また、これまでの暮らしが継続できるように、親しんできた家具や食器など持ち込んでいただくように配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は担当制で、入居者とのなじみの関係の中で、意向や要望を把握し支援できるように努めている。入居者はできることは行っていただくように支援し、共に暮らすという考えのもと、一方的に介護される側にならないよう取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや意向を全職員で共有するために「ミーティングノート」により情報の共有化を図っている。入居者とは多くの会話をもち、本人本位の思いや意向を聴きアセスメントを行い、本人のライフスタイルなどを尊重したケアやサービスの提供を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成しているが、ルーチンワークは手順書としてまとめ、短期目標とモニタリングが1表でわかるなど、短期目標に対してどのようにケアやサービスが効果があったかなどを把握できるシートの作成が求められる。また、医療連携加算を取っているため、看護師による看護計画が求められる。薬の副作用など入居者の状態変化を把握し、その効果などを観察することが必要である。</p>		<p>医療連携加算を取っているため、看護師による看護計画が求められる。また、日々のケアやサービス提供に関して、短期目標の中でどこまで達成したかなど確認できるシートがあれば、より実効性が高いケアやサービスの提供につながると考えられる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しを行っている。また、状態変化が生じた場合は、随時介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスを併設し、デイサービスのカラオケルームやマッサージ機を利用することができ、デイサービスとの合同行事(ベーベキューや音楽鑑賞など)を楽しむことができ、利用者との交流やふれあいの機会が多い。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の同意を得てグループホームのかかりつけ医に1ヶ月に1回往診してもらっている。歯科は1週間に1回訪問診療を受けている。また、状態変化や健康状態に問題が生じた場合は、早急に受診するなど対応している。受診結果は随時家族に報告している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	提携医療機関と連携体制を取っており、「看取りに関する指針」を定め、かかりつけ医・家族とも話し合っ方針を共有し、入居者・家族の同意を得て記名・捺印のある書類を完備している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。調査当日も入居者への職員の声かけは親しい中にも礼儀をわきまえた、穏やかなものであった。入居者の個人情報は、鍵のかかる収納庫に保管・管理し、職員は個人情報を他に漏らすことがないように徹底して取り組んでいる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、天気や体調をみながら、入居者の希望を尊重し、日々の過ごし方を支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの好みを献立に活かし、色取りや盛り付けを工夫し、入居者と職員が楽しく会話しながら食事をしている。1ヶ月に1回は外食を楽しんでいただけるように支援し、ドライブの際におやつを楽しむなど、食生活に変化をつけている。また、入居者で食事の盛り付けや片づけができる人には手伝っていただいている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	本人の希望を聞き、入浴日や時間を設定し、入浴を楽しんでいただくように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の暮らしの中では、食器の片づけ・掃除・洗濯たたみ・花の水やり・草むしりなど役割を持っていただき、趣味である手芸や習慣など入居者の生活歴を活かした支援を行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日、散歩・外気浴やドライブに出かけている。また、美術館や写真展・作品展などにも出かけたり、地域行事に参加するなど、日常的に外出を多く取り入れるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は自由に出入りができるように職員が見守りを行い、鍵をかけないケアを実践している。入居者が出かける場合は、職員が後ろから付きそい見守るようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、運営推進委員会のメンバーの協力のもと、防災訓練を行っている。夜間を想定しての訓練も行っており、近隣の方へは災害時の協力をお願いしている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立は栄養士が立て、栄養バランスが取れた食事内容となっている。その日に合わせた食事量・水分量を摂取していただいている。水分摂取量に関しては、今後の注意点として、入居者の状態に応じた摂取量を確認し、適切な水分量を摂取できるように支援していくことが望まれる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関を入ると開放的なリビング空間があり、対面式キッチンになっており、落ちついた雰囲気のリビングになっている。リビング空間は椅子やソファなどが置かれ、季節の花が飾られ、入居者が居心地よく過ごせるように工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室はご自身の住まいと同様に、個人の暮らしの歴史を感じる空間となっており、これまでの暮らしの延長といった雰囲気で思い思いの家具や箆笥・椅子・テーブルなどが持ちこまれ個性的な居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			